絶・予防）を先延ばしにする理由にしてはならない」という原則である．このことは研究者にこそ，心しておくべき認識であろう．というのは，研究者が今さらのように，「バス釣りが盛んになるまで何ら対処せずに放っておいて，即時全面禁止というのは，現実的な対応ではない」という大浜論文の言説にも一理あるからである．この研究者としての反省をバス問題に生産的に活かすことは，バスの科学的研究の促進以外になく，それを予防や駆除に応用することである．

願わくば，9章として全体を総括し，淡水生態系の悪化に関連する他の要因とバス問題を位置付ける論稿があって欲しかったし，あるべきであったと思う．それはおそらく，移入初期段階でありながら分布拡大しつつあるコクチバスや，バス以上に定着の兆しをみせるブルーギルの問題との共通性と差異性を明らかに位置付けるものであり，よりバス問題の方向性を鮮明にするのではないかと予想する．

最後に，本書の目的としては本質的ではないが，刊行物としての問題点を指摘しておきたい．誤字や文章推敲の甘さが目立ち，かつ段落間や文章間の文脈のつながりの悪さが気になる箇所もある．また，本書が一般向けに書かれたとするならば，説明すべき用語などもあるように思えた．もっと鮮明にした方がよい写真や，加工してわかりやすくすべき図表もある．これは編集者の問題であろう．こうしたことは再版時に手直ししていけばよいことであり，論稿としての大きな問題ではないが，本として公表する以上，その出来不出来に対する責任をもつ必要があり，自戒の意を込めて，あえて述べておきたい．また，この点について慎重に対応しておかないと，思い過ごしでなく「バス擁護派」に不要な揚げ足を取られ兼ねない．それを気にしないといえば，それでもよいのであるが，彼らに妙なところをつかれて気勢を挙げられるネタにされるのは面白くない．

しかしながら一方で，この性急ともいえる刊行は，バス問題が淡水生態環境に深刻な事態をもたらしているにもかかわらず，「問題の理解と解決の手だてを考えるための適切な科学書が見あたらないこと」（編集にあたって，後藤）によって，急いで出版をしたということのようだ．これは残念な事ながら，現状では仕方のないことだろう．その点において，本書は大いに意義をもつべきものである．言うまでもなく，これを研究者間の了解事項や確認として留まるような代物にしてはならない．つまり，本書の意味は，社会に向けていかにこれを活用し，利用される機会を増やすかにかかっているのである．

（森　誠一　Seiichi Mori；〒503-8550 大垣市北方町5-50 岐阜経済大学生物学教室　e-mail: smori@gifu-keizai.ac.jp）

図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
49(2): 148-149

□魚類学

衆鱗図　第一帖・第二帖． 江戸時代の魚類図譜「衆鱗図」が香川県歴史博物館友の会博物図譜刊行会から刊行されていますので，紹介いたします．

「衆鱗図」は高松松平家に伝来する四種十三帖の博物図譜の一つで，海水や淡水に生息する様々な生物の図を，折本状につないだ台紙の表裏に貼った画帖で，全四帖から成っています．第一，二及び四帖は表裏とも海水魚（イルカ類含む），第三帖表は水性無脊椎動物，第三帖裏は淡水魚が描かれています．

制作年代は宝暦十二年(1762)に高松藩五代松平頼恭が，魚類図譜（現存せず）を幕府へ献上したこと等から，図譜献上と同じ宝暦年間頃と推察されています．絵師については楠本雪渓（宋紫石）とともに讃岐の絵師三木文柳などの可能性が考えられ，当時高松藩に仕えていた平賀源内が関わって制作されたと推察されています．

松平家に秘蔵されて来たため，ほとんど知られてなく，松井魁著「書誌学的水産史並びに魚学史　鳥海書房，東京，1984」においても触れられていません．ただ，科学朝日編「殿様生物学の系譜　朝日新聞社1991」では「衆鱗図」について高い評価で記述しています．また，西村三郎編著「日本海岸動物図鑑 [I]　保育社1992」（「衆鱗画譜」と記載されている）の中に「衆鱗図」中のアサヒガニ等の引用が見られます．江戸時代には大名間でこのような図譜の貸し借りがあったようで，江戸時代の魚譜としては栗本丹州が描いたものが有名ですが，その中に「衆鱗図」のものが多数転写されていると推察されています．

精緻な写実で彩色が施され，鱗の一枚一枚が描かれ，多くは種名がすぐに思い浮かびますが，学術的に鰭条数や鱗の枚数がどの程度正確であるかは検証されていません．描かれている魚類等は明らかに高松藩内産に留まってなく，産地の表示もなく，分類学的に統一された順には描かれていません．また繰り返し描かれている種もあります．こうしたことから，現在の科学水準からすると学術的というより，美術品的といった色合いが濃く感じられます．しかし，約240年前の魚類等の博物学として見ればたいへん興味深いものです．印刷は京都の歴史的な美術品等を手がける会社が行っており，見事な刊行物です．

実物大の刊行ではなく，A4版横とじの様式で，現在「一帖」「二帖」が刊行されており，「四帖」まで刊行が予定されています．書店等を通しての販売はしてなく，香川県歴史博物館友の会から直接入手する事が可能です．刊行物の概要と入手方法は次のとおりです．

高松松平家所蔵　衆鱗図　第一帖
　発行日　平成13年3月31日
　編　集　香川県歴史博物館
　発　行　香川県歴史博物館友の会博物図譜刊行会

〒760-0030
香川県高松市玉藻5番5号
香川県歴史博物館内
電話 087-822-0002
FAX 087-822-0043
印 刷 株式会社 便利堂
A4版 横とじ 110頁
有料配布部数 400部
配布価格 3,500円
高松松平家所蔵 衆鱗図 第二帖
発行日 平成14年3月31日
A4版 横とじ 114頁
有料配布部数 400部
配布価格 3,000円
(編集等は第一帖と同じ)
入手方法
遠方からの入手希望者は香川県歴史博物館 総務課(087-822-0002)に電話連絡すれば，送金方法等の入手方法が示されますので，それに従って入手してください．

(吉松定昭 Sadaaki Yoshimatsu：〒761-0111 高松市屋島東町75-5 香川県水産試験場 e-mail: aah44412@pop06.odn.ne.jp)

会員通信・News & Comments

魚類学雑誌
49(2): 149-150

Ichthyological Research 原稿作成上の注意点と変更点について

Ichthyological Research の印刷製本を昨年の48巻から(株)シュプリンガー・フェアラーク東京(以下シュプリンガー社)に委託したことにともない，雑誌の体裁が大きく変わり，また原稿の書き方にも多くの変更が生じました．これについては，すでに魚類学雑誌48巻1号61-65ページに「***Ichthyological Research*** 原稿作成ガイドについて」として詳述されております．しかし，昨年以降，***Ichthyological Research*** を印刷発行していく上で，いくつかの問題点も明らかになり，印刷発行の遅延を生じかねない事態も生じました．この問題点の多くは，コンピューターが日本語環境と異なる外国で印刷を行っているということに起因すると考えられます．しかし，著者の方々に投稿時あるいは主任編集委員に送付する最終原稿作成時に少し注意していただくだけで，これらの問題の多くを回避できることもわかりました．さらに，先の「原稿作成ガイド」のうち，見落とされることの多い箇所についても明らかになりました．そこで，可能な限り問題を生じさせることなく，円滑に印刷発行するために，著者のみなさまに下記のような注意点をお知らせするとともに，「原稿作成ガイド」以降の変更点についてもご連絡いたします．

注意点

1. フォント 上述のように，***Ichthyological Research*** は外国で印刷されているため，日本語フォントは文字化けを生じます．そこで，全ての原稿(和文要旨を除く)は英文フォント(半角英数)のみで作成されるようにお願い致します．特に，度を表す「°」や分，秒を表す「′」，「″」のほか，ダッシュやギリシャ文字，記号などについてもご注意願います．

2. キーワード キーワードは**Abstract**の最後に1行空けて記述して下さい．語数は3-5で，各キーワードは大文字から始めます．

3. 見出し 現在 l***chthyological Research*** では原則的に，**Results** や **Discussion** では第1見出し(太字)と第2見出し(イタリック)を用い，**Materials and Methods** では第2見出しを用いております．

4. 属名 緒言，**Materials and Methods**, **Results**, **Discussion** などの大項目中で2回目にでてくる属名については，属名をその頭文字で略することができます．但し，文頭では必ずスペルアウトして下さい．また，同一頭文字をもつ属名が複数でてくる場合も，スペルアウトするか，属名に混乱が生じないように略記するなど，十分にご注意下さい．

5. 和文要旨 和文要旨は「魚類学雑誌」に印刷されます．したがって，和文要旨の体裁は「魚類学雑誌」のそれに従います．特に，句読点は「.」と「,」であることにご注意下さい．

6. 印刷時の図の大きさ 図の印刷は通常片段組(約5-8 cm幅)あるいは全段組(約13-16 cm幅)で行います．図中の文字の大きさは，印刷時に大文字の高さが約2-3 mm程度となるようにご注意下さい．また，印刷時の線の太さにもご配慮願います．

変更点

1. 本文・表のデジタルファイル 掲載可能となった原稿の本文および表は，デジタルファイルを主任編集委員宛に提出していただきます．この際，表紙，Abstract，本文，図の説明はひとつのファイルにまとめて下さい．また，表も可能な限り，本文などのファイルとあわせてひとつのワープロファイルとして下さい．複数のファイ